

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

① 第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

② 評価調査者研修修了番号

SK2021096

S2021052

神機構-456

神機構-813

③ 施設名等

名称	日本水上学園
施設長氏名	佐々木 亮
定員	84名
所在地(都道府県)	神奈川県
所在地(市町村以下)	
T E L	
U R L	

【施設の概要】

開設年月日	1942/7/20
経営法人・設置主体（法人名等）	社会福祉法人日本水上学園
職員数 常勤職員	36名
職員数 非常勤職員	3名
有資格職員の名称（ア）	保育士
上記有資格職員の人数	7名
有資格職員の名称（イ）	幼稚園教諭
上記有資格職員の人数	2名
有資格職員の名称（ウ）	社会福祉士
上記有資格職員の人数	3名
有資格職員の名称（エ）	社会福祉主事
上記有資格職員の人数	4名
有資格職員の名称（オ）	教員
上記有資格職員の人数	10名
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の人数	
施設設備の概要（ア）居室数	年少児童寮1, 男子年長児童寮4, 女子年長児童寮4
施設設備の概要（イ）設備等	伊藤記念館（食堂、面談室、プレイルーム、親子生活訓練室、自立訓練室、実習生室）、園内保育室、会議室
施設設備の概要（ウ）	
施設設備の概要（エ）	

④ 理念・基本方針

◇基本理念

キリスト教の精神に基づき、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成されるよう支援することを理念とする。

◇基本方針

児童の自立支援にあたり、「経済的自立」と「精神的自立」の二つを柱に支援の目標を定めています。

「経済的自立」 自分で働いて食べていくことのできる能力

「精神的自立」 他人を配慮しながら自分で考えて行動を決定し、その結果に責任をとることのできる能力

⑤ 施設の特徴的な取組

〇子どもたちの「経済的自立」と「精神的自立」を基本方針に置き、入所の段階から学力や精神面の安定、コミュニケーション力を養う取り組みを行っている。個別担当制を取り、複数指導体制がフォローし、卒園まで同じ職員が支援することで、精神的な安定や信頼関係を構築し、進路についても早い段階から相談している。経済的自立には、学力の向上が必要と捉え、公文式学習（算数・国語）や英会話、塾、予備校などで、子どもたちは日々学んでいる。コグトレ（学習面、身体面、社会面に働きかけるプログラム）によるコミュニケーション力の向上にも取り組んでいる。精神的自立を目指すため、精神的自立委員会を設置して、子どもたちの話し合いの場を多く設定している。子どもたちは、年代別や全体会、高校生オリエンテーションを通して、他者の意見をきちんと聞き、自分の意見を表明して、コミュニケーション力を高めている。

⑥ 第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2023/6/1
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2024/2/20

⑦総評

○開設して80年を超える歴史のある児童養護施設で、子どもたちの自立を目指した養育・支援を実践している。子どもたちは、小学1年生までの年少児童寮と、小学2年生以上の男子年長児童寮と女子年長児童寮で生活を送っている。また、他区に地域小規模児童養護施設を開設し、6人までの子どもが生活している。

○個別担当制や寮内の職員を変えない体制をとり、子どもたちは落ち着いた環境で生活している。一人の職員が長い間担当することから、性格の把握や愛着関係も形成され、本人の変化にも気付きやすい。自分の気持ちを言語化できないときに、「肌を掻きむしる」「リビングに出てこない」などの行動をしてしまう子どももいる。担当職員を中心に、寮会議で要因や背景を考えるとともに、職員会議で情報を共有している。

○年少の子どもは、年齢相応の社会性を学習するために、ゲーム感覚で取り組める「グループワーク」や「ソーシャルスキルトレーニング」を、7年前から取り入れている。発達に課題がある子どもには、教材を変えながら状態に合わせて取り組んでいる。小学生は公文式学習や英会話の他、感情のコントロールを目的にしたコグトレを行い、中学生は英会話や塾、高校生は予備校や専門学校と学びの環境を整えている。小学生は中庭でバスケットボールを楽しんだり、地域の野球やサッカーチームに所属している。

○寮会議や全体会、高校生オリエンテーションで、子どもたちの希望や要望について、子どもと職員が話し合い、子どもの成長に合わせて対応を見直している。年少児童寮では、添い寝の他、一人の子どもから「アイスを食べたい」などの希望があると、他の子どもにも確認して柔軟に対応している。個別対応として、本人が観たい映画や食事、旅行などに担当職員が同行している。家族関係が薄く外泊できない子どもは、担当職員が自宅に招いて宿泊したりしている。担当職員以外も、子どもの話を傾聴し、職員間で内容を共有している。

○担当職員が中心になり、中学卒業時に「育ちの整理」として、生い立ちや家族との関わり、担当職員としてどのように関わったかを記録している。職員会議で意見交換したり、児童相談所の担当児童福祉司から感想をもらっている。子どもに事実を伝えるときには、慎重に対応している。成長に応じ早い段階で、子どもと生育歴の整理や家族との関わり、将来のことについて話し合っている。退所する期間までに理解や納得が得られるよう、前向きに将来を考えて自立につなげてほしいと考えている。

○年長児童寮の子どもたちは、食堂を利用している。調理は外部業者に委託しているが、おまけのおかずやデザートがあり、子どもたちはワクワクしながら食堂へ向かっている。ホーム毎にテーブルを決め、家庭的な雰囲気の中で食事をしている。季節料理や行事食、月1回の自由献立の日がある。自由献立では、子どもたちが献立を決め、買物や調理を自分たちで行っている。

○高校生になると、アルバイトを積極的に勧めている。進学や卒園後のための貯蓄、社会体験、コミュニケーション力の習得の他、自分にあった職業探しにも役立っている。アルバイト代は振込にしてもらい、銀行の引き出しなどの操作を学んでいる。工業系の高校の場合、学校のサポートで「職場実習」があり、特別支援学校の場合は「実習体験」で社会経験を積む機会がある。就職先を広げるため、子どもたちには、普通自動車運転免許の取得を勧めている。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

第三者評価が義務付けられてから今回で4回目の受審となりました。評価機関の方には当園で発行している「日本水上学園の児童養護」を隔々までお読みいただき、当園が大切にしている取り組みを理解していただきました。感謝申し上げます。

前回の受審からコロナ禍を経て生活様式も大きく変わりました。そんな中でも子どもたちにとって大切なことは何かを考えながら支援を継続していきました。自己評価、ヒアリングを行う中で水上学園が大切にしている考えや行事の大切さを再認識する機会となりました。

今回の結果を受け止めて改善すべきところは改善し、今後も子どもたちの最善の利益を保障すべく子どもたちの成長と幸福を追求する決意をもって養育の実践と施設運営に努めてまいります。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○

	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○

【コメント】

基本理念や基本方針は、ホームページや事業計画書、事業報告書、パンフレットに記載している。毎年、職員全体で「日本水上学園の児童養護」の冊子を作成し、巻頭言でも基本理念を示している。子どもたちの経済的自立と精神的自立を目指し、職員全体で養育・支援にあたっている。子どもたちには、中学生になり進路を決める時などに、基本理念や基本方針に触れている。保護者には、入園時に「入園のしおり」で説明したり、来園時に説明したりしているが、面会の際は、子どもの生活の様子を話すことの方が多い。

2 経営状況の把握

(1)	経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
	<p>① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。</p> <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	a
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○

【コメント】

県の施設長会や、市の児童福祉部に、園長が出席している。また、全国児童養護施設研究協議会や関東ブロック児童養護施設研究協議会などの研修会にも園長が参加して、児童福祉を取り巻く動向について情報を収集している。月3回、園の最終決定の場である職員会議を開催して、把握した動向を報告して、全職員で共有を図っている。職員会議の後には、引き続き、フロア会議を開催している。2年前からユニットの定員を8人とし、地域小規模児童養護施設を開設しているが、今後も地域分散化などについて、国や市の動向を確認する必要があると捉えている。

	<p>② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。</p> <input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	a
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○

【コメント】

経営の状況については、顧問税理士のアドバイスを受けている。月2回開催する園長やフロアのリーダー、サブリーダーで構成するフロアリーダー会議には、事務長が出席して、経営の判断が必要な事案について意見を述べている。理事会においても、予算や補正予算、決算の状況を事務長が報告して、経営状況を明らかにしている。児童養護施設の小規模化の流れの中で、1ユニットの子どもの人数が減ると、全体の受け入れの人数にも影響が出るなど、課題も見えていることから、市との協議を繰り返していく必要があると捉えている。

3 事業計画の策定

(1)	中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
	<p>① 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。</p> <input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	a
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○

<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

園を建て替えて20年を迎えるため、修繕について計画を立て、積み立ても定期的に行っている。中・長期計画とした書面は策定していないが、児童養護施設が抱える課題を明白にしている。「日本水上学園の児童養護」の冊子作成においても、4月に冊子編集委員会を立ち上げ、テーマを決めて取り組んでいる。これまで築き上げてきた養育・支援の体制を、今後どのように維持していくかが課題であると捉えている。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

園を建て替えて20年を迎えるため、修繕について計画を立て、積み立ても定期的に行っている。中・長期計画とした書面は策定していないが、児童養護施設が抱える課題を明白にしている。単年度の事業計画の策定に際しても、それらの課題を落とし込んでいる。各寮が前年度を総括し、それぞれの寮が、目標を立てている。「日本水上学園の児童養護」は、外部の関係機関向けに作成しているが、それとは別に、内部資料としても冊子を作成している。子どもたちも話し合いを行い、子どもたちの目標として「部屋の目標」を立てている。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

月3回開催する職員会議の場で、職員の声聞き、年度末に園長が事業計画を策定している。策定した事業計画は3月に理事会に諮り、決定している。3月末から4月の初めにかけて、職員会議の場で、園長が事業計画の内容を職員に説明している。事業報告において、1年間の計画を効果測定し、今後の改善点などを、次の事業計画の策定に反映している。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちには、日常の会話や話し合いの機会の中で、園の方針や行事計画などを説明している。事業計画書そのものを、子どもや保護者に配布はしていないが、保護者に対しては、年2回、「水上だより」を発行して、行事の報告などを行っている。また、毎年11月に保護者会を開催して、園の様子を伝えたり、行事の映像を見てもらっている。日頃より子どもたちの声を聞き、定期的に関心する全体会で、行事などの説明を行っている。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的を受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○
【コメント】		
年度が終了すると、職員会議の場において、年度の振り返りと評価を行い、次年度に向けた目標を設定している。外部向けの「日本水上学園の児童養護」とは別に、子どもへの対応の反省と評価を振り返る内部資料を作成している。「日本水上学園の児童養護」は、4年前からテーマを絞って作成している。「日本水上学園の児童養護」は、毎年、700～800部印刷し、県内外の施設や行政、児童相談所、学校関係などに広く配布している。		
②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○
【コメント】		
職員会議で、1年間の振り返りを行う作業の中で、他の寮の職員からも意見をもらい、反省と評価を行っている。各寮ごとに目標を設定し、1年間の考察を行い、次年度の目標を決定している。また、内部資料としてまとめた、子どもへの対応の反省と評価を振り返る文書も、改善策の検討に反映している。		

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○
【コメント】		
「日本水上学園の児童養護」では、今後の園の方針を園長が表明している。現状の支援体制を維持しながら、子どもたちの自立を支援していくことを園長が表明して、市や児童相談所と話し合いを行っている。園長不在時は事務長に権限を委譲しているが、園長に報告、連絡、相談ができる体制を整え、職員に周知している。「消防・地震防災対策組織表」を事業計画書に記載して、災害発生時の役割分担も明確にしている。		
②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a

<input type="checkbox"/>	施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

県の施設長会や、市の児童福祉部に、園長が出席して、遵守すべき法令などを把握している。常にアンテナを張って新しい情報を入手し、職員会議の場で、職員に内容を伝えている。必要に応じて、朝の打ち合わせでも話している。インターネットの掲示板なども利用して、書類のペーパーレス化にも取り組んでいる。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	<input type="radio"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	<input type="radio"/>

【コメント】

年1回、9月～11月頃、園長と職員の個人面談を行っている。面談は、非常勤職員や事務職員を含め、全職員を対象に、一人1時間以上の時間をとって行っている。また、子どもたちとの面談も、必要に応じて実施していたが、今年度は小学生以上の子ども全員と面談する予定である。関東ブロック施設長研修や全国児童養護施設研究協議会施設長研修、社会的養護を担う児童福祉施設施設長研修会、人権研修などに園長が参加するとともに、研修係が年度当初に外部研修の計画を作成している。研修案内は職員会議で行い、参加職員を募っている。必要な研修には、職員自ら積極的に参加している。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>

【コメント】

財務の状況を、事務長が理事長や園長に報告し、予算状況を確認しながら、職員の昇給などを決定している。勤務シフトは寮ごとに作成しているが、職員が休みを取得しやすいよう配慮している。職員間の人間関係、チームワークを大切にして、職員の交流の場も意識して作るようにしている。コロナ禍で中止していたが、若手職員の参加率も高いことから、今年度は職員旅行も行う予定である。また、ごみの削減の協力を呼びかけたり、照明の8割をLEDにしたり、エアコンも順次、省エネタイプに入れ替えたりして、ごみの減量化や省エネルギーを促進している。園庭に季節の花を植え、緑化の推進など、環境にも配慮している。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

第三者
評価結果

①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
---	---	---

	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	<input type="radio"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員の募集は、園長が担当している。職員との面談で、退職予定者などを把握して、人員が不足しないよう、就職媒体サイトなどを活用して募集を行っている。退職者は少なく、年1~2名を募集している。また、県社会福祉協議会福祉人材センター主催の福祉の仕事フェアに、園長が参加して、人材の確保に努めている。福祉の仕事フェアは、まずは児童養護施設を知ってもらうことを目的として参加している。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

評価がしにくい仕事であるため、人事考課は取り入れていない。年1回の園長との個人面談では、職員の現況や目標などを確認している。中堅の職員については、県児童福祉施設協議会が開催する中堅職員研修に積極的に参加して、処遇改善加算に反映している。職員間のコミュニケーションが大事と捉え、寮を超えた会話や話し合いを意識して作るように勧めている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

有給休暇の取得は、寮ごとに調整して、積極的に取得できるよう取り組んでいる。また、有給休暇は1時間単位でも取得できるよう、就業規則の改定を行っている。毎年、職員の健康診断を実施して、職員の健康状態も把握している。職員間の関係性が悪いと、メンタル面にも悪影響が出ることから、日頃より、職場の雰囲気や留意している。現場の職員の半数以上が10年を超えて勤務している。10年、20年、30年の節目に、永年勤続特別休暇が取れるようにしている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

入職2年以内の職員を対象に、新任学習会を開催して、新任職員の意見を聞く場を作っている。新任学習会は、寮のリーダーなど先輩の職員がプログラムを作成し、年間10～15回実施している。また、全職員を対象にして、月1回、学習会を開催し、園の考え方を共有したり、自己啓発の場としている。3年目以下の職員には、「日本水上学園の児童養護」の冊子を読んでもらい、ケースカンファレンスなどにつなげている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

年度初めに研修担当の職員を選任して、職員の研修計画を策定している。また、同じ区内にある児童養護施設3施設で、年2回、合同研修を企画している。年1～2回、外部講師を招いて園内研修も行っている。園内研修は、職員の希望を聞き、最近では依存症についての研修を行っている。コロナ禍で実施を中止していたが、施設間交流研修も実施している。主に見学が中心になるが、児童養護施設以外に、乳児院や児童心理治療施設を訪れ、小規模ユニットの実践を学んだりしている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>
(社会的養護共通)		
<input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

年度初めに、学習会担当職員を決め、月1回、全職員を対象に学習会を開催して、意見交換の場を作っている。入職2年以内の職員には、新任学習会を設け、園の取り組みや歴史について学ぶ場としている。コロナ禍で、オンラインによる参加も多かったが、職員が年1回以上、宿泊を含めた外部研修に参加できるよう調整している。外部研修に参加した職員は、研修後、研修報告書を提出し、内容を学習会の題材として取り上げている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
---	---	---

<input type="checkbox"/>	実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	指導者に対する研修を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

家庭支援専門相談員を窓口として、実習生の受け入れを行っている。実習前にはオリエンテーションを行い、実習中も子どもたちと関わるだけでなく、職員とも話をする時間を設けている。実習生は、なるべく児童養護施設で働く希望のある学生を受け入れることにしている。現在、4校から年間5名ほどの、社会福祉士や保育士を目指す実習生を受け入れている。子どもたちが生活している場であることから、複数の実習生を同時に受け入れないよう配慮している。職員にとっても勉強の場であることから、今後も同じように実習生の受け入れを行っていく予定である。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者評価結果	
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	
<input type="checkbox"/>	ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	<input type="radio"/>

【コメント】

ホームページに、理念や定款、基本方針、計算書類、役員名簿、第三者評価の結果などを掲載して、運営の透明性を確保する情報の公開を行っている。事業計画書や事業報告書については、事務所に備え置き、いつでも閲覧できるようにしている。園の理念や基本方針、ビジョンについては、「日本水上学園の児童養護」の冊子に記載して、学校関係や民生委員・児童委員にも配布して、園の存在意識や役割を明確にするよう努めている。

② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a	
<input type="checkbox"/>	施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

経理関係については、2ヶ月に1回、顧問税理士が園を訪れ、会計の内部監査を行い、公正かつ透明性の高い適正な経営・運営に取り組んでいる。市の子ども青少年局監査課による一般指導監査は、2年に1回、受けている。内容によって、社会保険労務士などに相談ができる体制も整えている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者評価結果
① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a

	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○

【コメント】

小学生の登校時には、登校班の職員が付き添い、地域との日常の挨拶を心がけている。子どもたちは、地域の野球クラブやサッカーチームに加入しており、担当職員が練習の手伝いなどを行って、地域との交流を図っている。また、園のパンフレットは、見学者に配布している。地域の土木事務所からの依頼で、聖坂公園愛護会を結成して、公園の花壇の整備などを行っている。花の日や収穫感謝の日には、日頃からお世話になっている病院や教会、支援団体に、子どもたちが花や果物を届けている。地域の警察署からの提案で、小学生が中心になり、公園の清掃ボランティアも行っている。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

事務長を窓口として、ボランティアの受け入れを行っている。ボランティアは、県社会福祉協議会のホームページを通して募集している。学習ボランティアや空手のボランティア、バラ会による薔薇の手入れなどに、ボランティアが活動している。ボランティアの方は、夏の野外パーティーやクリスマス会に招待し、園の行事を体験してもらっている。また、毎年、学習ボランティアの集いを開催して、園長がボランティアの声を聞き、担当職員が子どもたちの勉強の様子を確認している。また、ボランティアが希望するドリルなどを準備している。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がいない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

児童相談所とは年1回、連絡会を行う他、必要に応じて随時連携している。学校関係とも連携し、幼稚園や中学校とは、年1回、情報を交換する連絡会を開催し、小学校とは年2回、連絡会を開催している。幼稚園の母の会の保護者が園の見学に訪れている。消防署や警察署、病院とも連携している。また、園の自立支援コーディネーターが、市のアフターケアの勉強会に参加している。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	

	(社会的養護共通) □施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	(5種別共通) □地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	

【コメント】

土地柄、地域との関わりに難しさを感じており、ニーズを細かく把握するまでには至っていない。町内会の防犯街歩きに職員を派遣し、火災時延焼防止のためのスタンドパイプを設置している。町内会や消防署と合同で、スタンドパイプを使用した訓練も行っている。区と災害受入協定を結び、園は福祉避難所に指定されている。区の会議に事務長が参加し、無線訓練も年1回行っている。災害の発生に備えて、非常食なども備蓄している。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	□把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	□把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
	□多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	
	□施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
	□地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

コロナ禍で受け入れを中止しているが、民生委員・児童委員の見学を積極的に受け入れ、園長が社会的養護の実態の話をしている。また、県社会福祉協議会福祉人材センターから依頼を受け、職員を派遣して、児童養護施設の職員の仕事の内容について説明している。園が福祉避難所に指定されていることから、災害の発生時には、まずは現在生活している子どもたちを守りながら、福祉的な支援を必要としている方々を受け入れる予定である。AEDも備えている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	□理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	□子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	□子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	□子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	□子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

「全国児童養護施設協議会 倫理綱領」を、園長が職員全体に説明している。また、県社会福祉協議会主催の「子どもの人権研修」に新任職員や中堅職員、園長が出席している。子どもを尊重した養育・支援を行うため、法人の理念である「経済的自立」と「精神的自立」を目指し、個別担当とチームを車の両輪にして取り組んでいる。ユニット制の中、フロア勤務で判断に困ったり、緊急対応を要する時には、他のユニットに相談しながら、統一した支援を提供できるようにしている。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
	□子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○

<input type="checkbox"/>	□ 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□ 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□ 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どものプライベート空間を大切にしている。こどもたちは、入所時に担当職員からもらった大きなぬいぐるみやポスターなどで、個人の好みに合わせて部屋を飾り、快適な環境づくりを行っている。プライバシー保護の取り組みとして、職員や他の子どもが勝手に部屋に入らないことや、SNSに園の生活をあげないことなどを決めている。保護者にも、個人情報の取り扱いを説明している。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
<input type="checkbox"/>	□ 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□ 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□ 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□ 見学等の希望に対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□ 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもの園の見学は、児童相談所の児童福祉司と一緒に来園するので、その際には、園の生活についての説明を丁寧に行っている。年少児については、園の生活に慣れてもらうよう、複数回の慣らし交流を行っている。入所時には、「入園のしおり」を配布して、必要な情報を提供している。保護者には、学校や園の行事の情報を提供して、子どもの様子を理解してもらっている。連絡が取れている保護者には、学校の行事に、できるだけ参加してもらうよう情報を提供している。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
<input type="checkbox"/>	□ 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□ 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□ 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□ 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	<input type="radio"/>

【コメント】

個別担当が作成する自立支援計画は、保護者の意向などを反映しながら定期的に見直しを行っている。子どもの自己決定のための支援として、特に進路など重大な選択は、個別担当が本人が勉強している時などにその様子を確認し、本人の声を聞きながらアドバイスを行っている。最終的には、本人が納得して判断できるようにしている。意思決定が困難な子どもは、児童相談所に間に入ってもらい、本人にとって最善の利益が得られるよう配慮している。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
<input type="checkbox"/>	□ 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□ 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□ 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□ 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	<input type="radio"/>

【コメント】

自立支援コーディネーターが、退所者の現況を把握するようにしている。退所後の具体的なアフターケアは、担当職員が行っている。退所後1年間は、5回は直接子どもに会って、一緒に食事などをしている。18歳で就職したが、仕事を辞めてしまったり、人間関係で悩んでいたりと、お金の困り貯蓄していたお金を使ってしまったりと、子どもたちは様々な問題を抱えており、相談や助言を行っている。

(3) 子どもの満足の上昇に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足把握を目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足把握を目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

各寮のリーダーが子どもにヒアリングを行い、満足度を確認している。また、子どものリーダー会議に出席し、そこで出た意見を職員会議で検討し、その結果をフィードバックしている。子どもたちの意見を聞き、小遣いの額を増やしたりしている。ただし、友だちの家に泊まりに行きたいとの希望は保留にしている。担当者の日常の関わりや子どもとの外出、学年ごとの話し合いなどで、子どもたちの意向を確認している。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

園長が子どもと面談を行う他、必要に応じて、各寮のリーダーが子どもとの面談を行って、話を聞く機会を設けている。また、第三者委員による「こども権利擁護委員会」を設置し、年度初めと終わりに、権利擁護委員4名が園を訪れ、こどもたちに委員会の目的や意見箱、苦情解決の仕組みを伝えている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

子どもが意見を述べやすいよう、園の職員だけでなく、権利擁護委員や児童相談所の児童福祉司とも相談できる体制を整えている。子どもの話を聞く際には、スタッフルームのカーテンを閉めたり、子どもの部屋で相談に応じたりして、プライバシーに配慮している。担当職員は、映画やボーリング、外食など、子どもと一対一で外出し、個別の愛着関係が形成できるようにしている。すぐに解決できないものは、子ども会議などの場で説明し、フィードバックしている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【コメント】

意見箱に意見が投函された時は、まずは権利擁護委員会の委員が、内容を把握する仕組みとしている。また、苦情の件数は広報誌に掲載することとしている。苦情がないことをよしとしないで、常に日々の養育・支援の内容を分析することが重要であると捉えている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

リスクマネジメントの責任者を園長とし、事故が発生した場合の報告などの流れを決めている。職員はAEDの講習を受け、事故が発生した場合にはすぐに対応できるようにしている。また、市の対応マニュアルに沿って報告書を提出している。薬品類は、各寮の鍵のかかるキャビネットで保管し、小学生のカッターは職員が預かって管理している。不審者対応として、2台の防犯カメラを設置している。月間のヒヤリハットの記録をまとめ、掲示板を通して、内容を共有している。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

健康管理ファイルで、予防接種や通院などの記録を管理している。感染症に対しては、保健所の指示に従って必要な措置をとるようにしている。また、子どもがインフルエンザに罹患した場合には、寝室などに配慮している。感染症予防マニュアルは、各寮に置き、いつでも内容を確認できるようにしている。コロナの予防接種については、子どもと保護者の同意を得て、ワクチンの接種を受けている。職員は救急救命法の講習を受け、年少児童寮の職員は、乳幼児救急救命法の講習を受けている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

備蓄倉庫に5日間分の非常食を備蓄して、栄養士が管理している。毎月、災害発生に備え、年長児童寮、年少児童寮とも、担当者が火災や地震、土砂災害を想定した避難訓練を行っている。避難の際の点呼は、各寮の職員と年長の子どもが行っている。就寝時に災害が起きることを想定して、ベッドの近くにサンダルを置いている。消火器の訓練も行っている。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

毎年発行している「日本水上学園の児童養護」に、養育・支援の方法や各寮の支援の取り組みをまとめ、支援の振り返りや今後の目標を明確にしている。5年前からは、ボリュームが多いと手に取ってくれないことも想定されるため、編集委員会がテーマを設定して、テーマに沿った内容で発刊している。ただし、5年に1回は、これまで通りの日本水上学園の取り組みをまとめた厚い冊子を作成している。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

PDCAサイクルに基づき、1年間の支援内容を振り返る作業を、各寮で行っている。各寮でできたこと、できなかったことを振り返り、職員会議で内容を共有している。毎年5月までに振り返り及び総括を行い、内部資料として保管している。自立支援計画の内容についても、半年ごとに見直しを行っている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a

<input type="checkbox"/>	自立支援計画策定の責任者を設置している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

担当職員が自立支援計画を作成し、リーダーや園長の確認を受け、寮会議で内容を共有している。自立支援計画の内容は子どもにも伝えている。また自立支援計画の作成をわかりやすくするために、学習会で検討したらどうかという意見もあり、標準化した方法を模索している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
<input type="checkbox"/>	自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	<input type="radio"/>

【コメント】

児童相談所とは、年1回の定期的な連絡会を開催する他、必要に応じて、カンファレンスを行い、子どもに対する支援目標や見立ての共有を図り、自立支援計画に反映している。児童相談所のケースワーカーは異動もあり、連携が難しい面もある。自立支援計画は、前期と後期に、定期的に振り返りを行っている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
<input type="checkbox"/>	子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

児童育成記録は、毎日、担当者が記載している。毎月10日までにリーダーに提出し、園長の確認を受けるシステムを取っている。子どもの強みや長所、あるいは新たに発見したことなどを記載している。朝の打ち合わせでは、昨日の出来事を報告し、職員間で内容を共有している。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

子どもに関する記録類は、事務所の鍵つきのキャビネットに保管している。職員が記録を持ち出す際には、記録簿に必ず持ち出しの記録をすることになっている。また、写真の管理方法についても定めている。パソコンは各職員に1台用意し、サーバーやパスワードを管理している。

内容評価基準（24項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果	
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○

【コメント】

子どもの権利養護については、職員会議で周知している。職員は「人権チェックリスト」で振り返りを行い、寮内の職員間で確認し合った後、職員会議で意見をもらっている。外部の第三者委員で構成した「こどもの権利養護委員会」があり、子どもや保護者から苦情や意見を受け付け、解決する体制を作っている。園長やリーダー職員が子どもと面談して、権利侵害の実態把握と早期発見に努めている。クリスマス会などの礼拝はあるが、信仰の強要は行っていない。食前の感謝のお祈りも「いただきます」などに替えている。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	○

【コメント】

「権利ノート」は、入所時に児童相談所が説明して、子どもに渡している。月1回開催している職員学習会の他、人権侵害など外部研修に参加して、内容を報告し、意見交換を行っている。子どもたちは、寮内の子ども会議の他、全体会議で、職員も交えて権利について話し合いを行っている。また、小学生を対象にしたコグトレでは、教材を使用し、相手の気持ちを考えるトレーニングを日頃から行っている。年少児童寮では、遊具の取り合いもあるが、すぐに介入せず見守りをしている。園の歴史のなかで、男女間の平等などについて年数をかけて検討した経緯から、職員は自他の権利を強く意識している。

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	○

【コメント】

担当職員が中心になり、中学卒業時に「育ちの整理」として、生き立ちや家族との関わり、担当職員としてどのように関わったかを記録している。職員会議で意見交換したり、児童相談所の担当児童福祉司から感想をもらっている。子どもに事実を伝えるときには、慎重に対応している。成長に応じ早い段階で、子どもと生育歴の整理や家族との関わり、将来のことについて話し合っている。退所する期間までに理解や納得が得られるよう、前向きに将来を考えて自立につなげてほしいと考えている。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

子どもに対する不適切な関わりは、「人権チェックリスト」に取り組み、日々の養育・支援の振り返りを職員会議で行っている。また、複数指導体制で、不適切な関わりを予防している。過去の不適切な言動を新任学習会で議題にあげ、再発防止に取り組んでいる。感情のコントロール方法など、外部の講師を招いて研修を行っている。子どもたちが帰る時間帯には職員配置数を多くしている。「こどもの権利養護委員会」では、投書箱や子どもの権利についての説明会を実施している。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A5 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
---	---	---

<input type="checkbox"/>	子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
<input type="checkbox"/>	入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
<input type="checkbox"/>	子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
<input type="checkbox"/>	家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

乳児院からの措置変更については、乳児院に向かうことから開始し、徐々に時間をかけて慣れてもらっている。入所時には、ウェルカムプレゼンとして、ぬいぐるみを渡している。不登校の子どもへの対応については、背景を把握し、同じ寮の子どもたちが登校に誘うなどしている。学校にも事情を説明している。家庭復帰については、関係者や児童相談所と話し合いを重ね、家族関係の再構築を支援している。復帰にはうまくいかないこともあるが、双方に後悔が残らないように支援を行っている。また、年少児童寮から年長児童寮への移動においても、当初は食事時の交流から順序立てて丁寧に行っている。

②	A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/>	子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
<input type="checkbox"/>	退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
<input type="checkbox"/>	行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
<input type="checkbox"/>	本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
<input type="checkbox"/>	退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

園の方針である「経済的自立」と「精神的自立」を基に、高校生になったらアルバイトを行い、進学や就職準備資金として100万円の預金を目標にしている。精神的自立においては、コミュニケーション力を高める支援として、自分の意見をしっかりと伝える場を設定している。進学の経済的支援として、園独自の上限100万円の教育奨学資金や、園内の職員寮を無償で提供している。退所後5年間は、元担当職員が相談を受け、一緒に食事に出かけたりしている。また、高校生になると、調理実習や一人暮らし体験をしている。新年会には、退園1～2年目の先輩に来てもらい、子どもたちが体験談を聞いている。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a
<input type="checkbox"/>	職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
<input type="checkbox"/>	子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
<input type="checkbox"/>	子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
<input type="checkbox"/>	子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
<input type="checkbox"/>	子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○

【コメント】

個別担当制や寮内の職員を変えない体制をとり、子どもたちは落ち着いた環境で生活している。一人の職員が長い間担当することから、性格の把握や愛着関係も形成され、本人の変化にも気づきやすい。「肌を掻きむしる」「リビングに出てこない」など、自分の気持ちを言語化できない子どももいる。担当職員を中心に、寮会議で要因や背景を考えるとともに、職員会議で情報を共有している。児童相談所の担当児童福祉司とも連携し、支援方法を検討している。小さい子どもは言葉で伝えきれないことも多い。特に家族との交流前後は変化に気を付け、添い寝の時や外出した時に、ゆっくり話を聞いている。

②	A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○

【コメント】

寮会議や全体会、高校生オリエンテーションで、子どもたちの希望や要望について、子どもと職員が話し合い、子どもの成長に合わせて対応を見直している。年少児童寮では、添い寝の他、一人の子どもから「アイスを食べたい」などの希望があると、他の子どもにも確認して柔軟に対応している。個別対応として、本人が観たい映画や食事、旅行などに担当職員が同行している。家族関係が薄く外泊できない子どもは、担当職員が自宅に招いて宿泊したりしている。担当職員以外も、子どもの話を傾聴し、職員間で内容を共有している。

③	A9 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○

【コメント】

小さい子どもは、「安心・安全」な生活を送ることを基本としている。手助けする部分が多いが、おもちゃの奪い合いなど、すぐには仲介せず見守っている。相手に譲るなどの行為が見られた時は褒め、自分たちで解決できるよう対応している。寮から1名リーダーを決め、フロアの職員と話し合うリーダー会や、全体会ではテーマを決めて職員と協議する場を用意して、子どもたちが自分たちの生活や課題に、主体的に取り組めるよう支援している。

④	A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○

<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が充分に活用されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

年少の子どもは、年齢相応の社会性を学習するために、ゲーム感覚で取り組める「グループワーク」や「ソーシャルスキルトレーニング」を、7年前から取り入れている。発達に課題がある子どもには、教材を変えながら状態に合わせて取り組んでいる。小学生は公文式学習や英会話の他、認知機能の強化を目的としたコグトレを行い、中学生は英会話や塾、高校生は予備校や専門学校と学びの環境を整えている。小学生は中庭でバスケットボールを楽しんだり、地域の野球やサッカーチームに所属している。本の購入の希望もあり、各寮の本棚には多くの本がある。新聞(こども新聞含め)も購読している。

⑤	A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

幼児はトイレ訓練や着脱、幼稚園のルール、交通のルール、交通機関を利用する時のルールなど、成長段階に応じ、社会生活に必要な知識や技術を身に付けている。全体会や高校生オリエンテーションでは、スマホの使用ルールの他、生活上のルールなどを職員と話し合いながら見直している。個別対応での外出では、レストランでの食事のマナー、夏休みなどの集団での外出では「集団で移動」する時のマナーや社会規範などを学んでいる。高校生はアルバイトをすることで、社会のルールを学び、銀行でのやり取りなどを身に付けている。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

年長児童寮の子どもたちは、食堂を利用している。調理は外部業者に委託しているが、おまけのおかずやデザートがあり、子どもたちはワクワクしながら食堂へ向かっている。ホーム毎にテーブルを決め、家庭的な雰囲気の中で食事をしている。季節料理や行事食、月1回の自由献立の日がある。自由献立では、子どもたちが献立を決め、買物や調理を自分たちで行っている。食材の値段や調理方法などを学習する場にもなっている。栄養士が日々の食事の様子を観察し、献立会議で子どもの嗜好や残食の状況を確認して、献立を作成している。

(3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

中学生になると自分で洗濯ができるよう、子どもたちは小学6年から練習をしている。その日の衣服は自分で選んでいるが、あまりにも季節と合わない場合は、担当職員が声掛けしている。衣類の購入は、被服費の範囲内で、中学生までは担当職員と一緒に買物に出かけている。高校生は一人で購入しているが、オシャレをしたい時期でもあるため、服装によって性的リスクがあることも話している。七五三や成人式、食事会などの機会に、「TPOに合わせた服装」を学んでいる。衣服にほつれなどが無いが、担当職員が気配りしている。

(4) 住生活

① A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

年少児童寮では、「安心・安全」を基本とし、職員が清掃を行っているが、成長とともに、ベッドまわりや自分専用のおもちゃ箱などを片付けられるよう、声掛けしながら支援している。怪我につながりそうな箇所などは、ヒヤリハットに記録し、職員間で注意している。年長児童寮は、中・高校生は個室、小学生は自分のスペースがあり、それぞれ自分で掃除をすることにしているが、なかなか片付かない子どももいる。日曜日には、子どもの自室の清掃を行っている。リビングにソファなどを置き、落ち着ける空間を作っている。

(5) 健康と安全

① A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

年1回、嘱託医による健康診断を行っている。嘱託医には、健康相談にもものってもらっている、必要に応じて、小児療育センターや市大病院など専門の病院に、職員が付き添って受診している。日頃の定期受診は担当職員が付き添っているが、突発時には他の職員がサポートする体制がある。子ども一人ひとりの「健康管理ファイル」に、通院や予防接種の記録も記載し、事務所の鍵付きのロッカーで管理している。薬も同じロッカーで管理し、担当職員から子どもへ渡している。インフルエンザの予防接種は、年少の子どもや、受験を控えた中学3年生、高校3年生は全員受けている。

(6) 性に関する教育

①	A16 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

【コメント】

全体会で、性について学習している。小学生には、年齢に合った話をしている。中学生の全体会では、テレビドラマを題材にして学習していることもある。日常の中でも、担当職員が中心となり、年齢や発達に応じて伝えている。年少児童には、大事な所（プライベートゾーン）の話をして、裸になったの着替えは止めている。高校生は、妊娠について学習し、結果に責任がとれる行動などを指導している。担当職員は同性を基本とし、相談しやすい体制を作っている。指導に不慣れな職員は、チーム内の職員から指導方法の助言をもらっている。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけて出そうと努力している。	○

【コメント】

年上から年下への圧力など、不適切なケースはあり、担当職員が中心となり、複数指導チームで対応している。職員会議で協議し、基本的には園内で対応しているが、状況に応じ、児童相談所と相談し、一時保護や措置変更を検討する場合もある。不適切行動を起こした場合、本人をいきなり叱責するのではなく、話をしっかり聞き、背景などに目を向けて対応している。状況に応じて、学校にも事情を説明して、授業参観で見守りをする場合もある。日常の生活の場が癒しの場となるよう、職員も一緒に楽しんだり、就寝前の時間を大事にするようにしている。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	○

【コメント】

感情をコントロールする方法として、年少の頃から「ソーシャルスキルトレーニング」に取り組み、小学生からは「コグトレ」を取り入れて、楽しみながら学んでいる。今後はセカンドステップ（子どものセルフコントロールと社会的・感情的能力を発達させるアプローチ）を取り入れることも考えている。また、個別担当制により、年長児童寮から卒園するまで最長11年間、同じ職員が担当することで、子どもの心情や性格を把握して、子どもの精神的安定につなげている。全体会など、子どもが主体的に考え、自分の考えを表出する場がある。下校後の時間帯には職員数を増やし、子どもと接する時間を多く作るようにしている。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

以前は心理職を配置していたが現在は不在であるため、児童相談所の心理司と連携し、必要に応じて、心理的ケアを依頼している。児童精神科医や嘱託医からのアドバイスを受ける他に、児童心理治療施設や医療機関にも相談している。心理再判定については、以前は2～3年に1回、児童相談所に依頼していたが、児童相談所の対応ケースが増大している状況がある。小学校3年と6年、また、幼児で入所期間が長い場合は、就学時も入れ3回実施している。虐待や発達障害など、心理的な対応が必要なケースが多くなっている現状があり、園としても心理職員は必要と捉えている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

卒園後に経済的に自立するためには、学力が必要との園の方針から、公文式学習（算数・国語）や英会話、塾、予備校などで、学力の向上に向けた取り組みを行っている。コグトレによるコミュニケーション力の向上にも取り組んでいる。学校の宿題は、一人では取り組めない子どもは、担当職員を中心に一緒に行うなど支援している。高校生からは自主学習に任せているが、赤点や進級が危うい場合は、学習時間を設けるなど対策を講じている。小学校入学時には、名前が書けるようになってほしいとの思いがあり、幼稚園から帰ると、ひらがなや数の練習をしている。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労（支援）しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	

【コメント】

「経済的自立」と「精神的自立」を目指し、入所の段階から、最善の進路を選択するため、学力や精神的安定、コミュニケーション力を養う取り組みを行っている。個別担当制を取り、卒園まで同じ職員が支援することで、精神的な安定や信頼関係を構築し、進路についても早い段階から相談している。公文式学習や塾などの利用で進学幅を広げ、コグトレ利用や日々の生活の中で、自分の意見を言える場、劇などの発表で自己表現できる場を作っている。また「育ちの整理」を行うことで、早い段階から自分の将来や進路選択を考える機会を提供している。

③	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

高校生になると、アルバイトを積極的に勧めている。進学や卒園後のための貯蓄、社会体験、コミュニケーション力の習得の他、自分にあった職業探しにも役立っている。アルバイト代は振込にしてもらい、銀行の引き出しなどの操作を学んでいる。工業系の高校の場合、学校のサポートで「職場実習」があり、特別支援学校の場合は「実習体験」で社会経験を積む機会がある。就職先を広げるため、子どもたちには、普通自動車運転免許の取得を勧めている。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

家族との信頼関係作りは、子どもの状態を把握している担当職員が中心になり、各寮のリーダーのサポートを受けながら行っている。家族関係再構築のため、家族との外出、一時帰宅など、家族関係が継続できるよう支援している。年1回、保護者会を開催し、園の生活の説明や、行事のDVDを見てもらっているが、参加者は少なく、今年度は3家族3名であった。児童相談所との連携では、担当職員の多忙や異動などで、児童相談所の職員と担当の子どもとの触れ合いの時間が少なくなっていると感じている。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○	

【コメント】

家庭復帰支援プログラムにて、児童相談所と相談しながら、親子関係の再構築に取り組んでいる。外出や帰宅訓練の他、園内のファミリールームを使用して、親子での宿泊を支援している。家庭復帰には、複雑な問題もあり、未解決のままの復帰もあり、不安が残る場合もあるが、本人が生きていく中で「あの時、戻りたかった」などの思いを引きずらないよう支援している。再度、園に戻ってくる子どももいる。家庭復帰については、進路決定など、その後の影響も視野に入れて、タイミングをみて支援している。